

70周年の預言についての考察

あなたの民とあなたの聖なる都市に関して定められた七十週がある。エルサレムを修復して建て直せという言葉が発せられてから指導者であるメシアまでに、七週、そしてさらに六十二週があるであろう。ーダニエル9：24, 25

70週の預言の意義と目的

この70周年の預言は「メシアの到来時とその果たす役割」を示すためだけに与えられたものではありません。

この70週の預言のそもそもの目的は「ユダヤ人とエルサレムに関して定められた」事柄を示すものですから、メシアについてだけでなく「その都市と聖なる場所とは、やって来るひとりの指導者の民がこれを滅びに至らせる」（ダニエル9:26）という事柄も含んでいます。

従ってこの預言に含まれる事柄を列挙しますと

「違犯を終結させる」 「罪を終わらせ」
「とがの贖いをする」 「定めのない時に至る義を携え入れる」
「幻と預言者との証印を押す」 「聖の聖なる所に油をそそぐ」

当然のこととして、この預言が成就したなら、これらの事柄がすべて、成し遂げられていなければなりません。

そして続く部分はこうなっています。

「そして、その六十二週の後にはメシアは断たれる。自らのためには何も持たないであろう。そして、その都市と聖なる場所とは、やって来るひとりの指導者の民がこれを滅びに至らせる。それで、その終わりは洪水によるものとなる。そして、終わりに至るまで戦争がある。定められているものは荒廃である。

「また彼は多くの者のために一週の間契約の効力を保たねばならない。そして、週の半ばに、彼は犠牲と供え物とを絶えさせる。

「また、嫌悪すべきものの翼の上には、荒廃をもたらす者がいるであろう。そして、絶滅に至るまでは、定められている事柄が、荒廃に横たわるものの上にも常に注ぎ出されるであろう」。ーダニエル9：26, 27

この預言を簡単にまとめると

- 69周年後にメシアが到来、その後断たれる。
 - 荒廃をもたらすものがエルサレムと神殿を滅ぼす
 - 彼は1週の間契約を保ち、犠牲を廃止する
 - 彼も絶滅させられるが、定められている事柄が、その者の上に注がれる
- これらの出来事も70周年が終わるときにすべて成就することになります。

文脈を見る限り、メシアに関する言及は26節の前半「自らのためには何も持たないであろう。」で終わっています。

その後は荒廃をもたらす者に関する言及です。

メシア到来の言及の後で、荒廃をもたらす指導者の民（一世紀の成就是ローマ軍）について述べ、27節で「また彼は多くの者のために一週の間契約の効力を保たねばならない。そして、週の半ばに、彼は犠牲と供え物とを絶えさせる。」（新世界訳）「彼は一週の間、多くの者と同盟を固め、半週でいけにえと献げ物を廃止する。」（新共同訳）

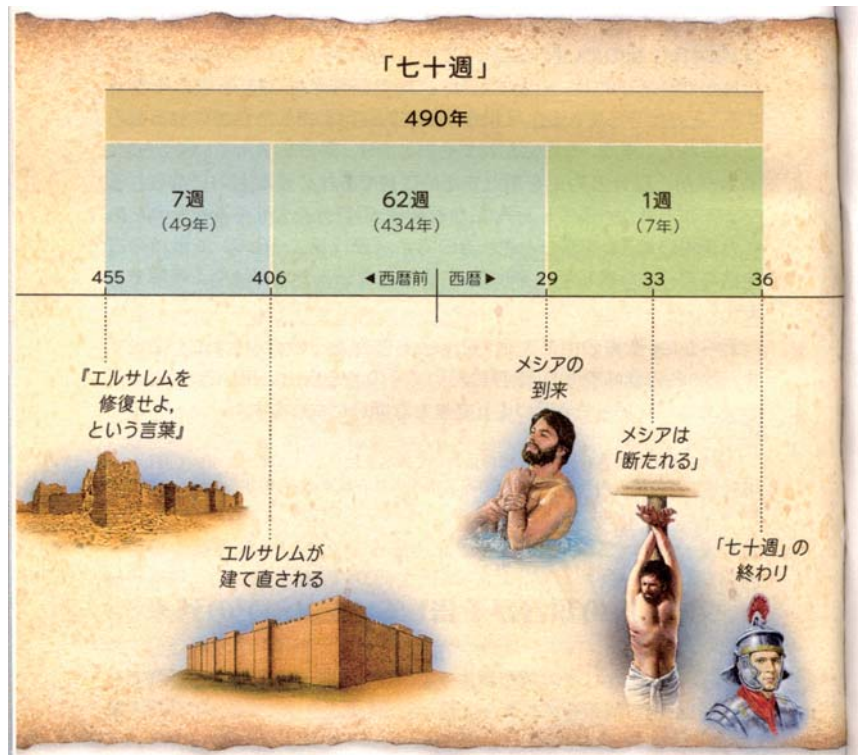
と記されています、文脈から言えばこの「彼」は明らかに「荒廃をもたらす指導者の民」をさしていますが、「ものみの塔」では「彼」を（文脈を無視して、ずっと元に戻って）「メシア」に適用して、キリストのあがないが「犠牲を絶えさせた」と説明していますが、「荒廃をもたらすもの」に関するダニエルの他の預言はどれも一貫してこの者が犠牲を絶えさせる張本人であることを示しています。

(ダニエル 11:31)「彼らは聖なる所を、要害をまさに汚し、常供のものをも除き去る。」「また彼らは荒廃をもたらす嫌悪すべきものを必ず据える。」

(ダニエル 12:11)「常供のものが取り除かれ、荒廃をもたらす嫌悪すべきものが置かれた時から、千二百九十日があるであろう。」

これだけ明確な根拠があるにも関わらず、それでも執拗に「彼」をメシアに適用して、1週を説明しようとする、さらに致命的な矛盾点が生じてきます。

エルサレムを立て直せという命令（西暦前 455 年）が出されてから【 $(7+62) \times 7 =$ 】483年後、すなわち西暦 29 年にメシアが到来し、そのまま継続して残りの1週が続く、つまり、70週年=490年間がとぎれることなく預言がすべて成就するものとする、当然、西暦 36 年までに記された全ての事柄が完了していなければなりません。



「聖書は実際に何を教えていますか」198Pからの転載

しかし、「荒廃をもたらす者がエルサレムと神殿を滅ぼした」のは西暦 70 年であり、70 周年の間に完了していません。さらに、荒廃をもたらす者もその後、絶滅されてはいません。ローマ世界帝国は徐々に衰退し、1806年にナポレオンが制定したライン同盟に組み込まれる事によって完全に歴史から姿を消した。というのが歴史の一般的な見解です。

そして、さらに、この本来の目的である「**違反を終結させ、罪を終わらせ、とがの贖いをし、定めのない時に至る義を携え入る**」という事柄について、確かに西暦 1 世紀にキリストの贖いはこれらをもたらす基礎を据えましたが、それによって完全に違反が終結したわけでも、罪を終わらせたわけでもありません、それは依然続いています。

それが実際に成就するのは、キリストが王として現実の行動に出られる時です。

従って結論として、70 周年の預言のほとんどは西暦 36 年に成就、完了してはいないことは明白です。

これらの事実から、ダニエルの 70 週の預言は、69 週後のメシアの到来とその後断たれる、という内容と荒廃をもたらす者による 1 週からなっていると言えます。

さて、70周年の預言が完了するのにあと1週、残っていることとなります。
では、その1週つまり7年はいつかということになりますが、荒廃をもたらす嫌悪すべき者が据えられ、神殿を汚し、そして絶滅させられるという内容から、最終的な「終わりの日」の「3時半」を含む時期以外にこれを当てはめられる時は他にありません。「終わりに至るまで戦争がある。定められているものは荒廃である。」(ダニエル 9:26)

しかし、そうなると69週目から最後の1週まで1900年間の空白が空くこととなります。
そのようにみなして良い根拠を見いだせるでしょうか。

ガブリエルはダニエルにこの預言を告げる際、「ダニエルよ、今わたしは、理解とともに洞察力をもあなたに得させるために出て来た。…ゆえにこの事をよく考え、見た事柄について理解を得よ。」(ダニエル 9:22 - 23)

と述べて、「洞察力」や「よく考えて理解を得る」必要があることを強調しています。
ということは、幾分変則的な要素があり得ることを示唆しているように思えます。
この70週の預言がメシアの到来から、そのまま継続して終わるなら、語られた預言は、ことさら、「洞察力」や「よく考える」必要があるといえるほど、不可思議でも不可解でも難解な内容でもありません。

特にメシアまでに69週あるのに「七週、そしてさらに六十二週がある」と表現していることに注目できます。普通このような表現からまず考えるのは「7週」後に何か目立った出来事があるのだろうか、と思います。

この「七週」つまり49年間は、都市の再建にかかる期間であろう、とされ、「西暦前406年までにある程度の都市の再建が完成したのではないかと思われる」と表現されていますが、この最初の「七週」が区切られている理由について聖書は何も言及しておらず、明確な根拠や歴史的な出来事は特定されていません。つまり「メシアまでに六十九週」と表現して、何も不都合なことはないということです。

この聖句の部分が伝達する必要のある要素は三つだけだからです。すなわち、目的はメシアの到来時期、いつから数えて、何年後か。ということだけです。

にも関わらず、敢えて「69」を「7と62」と表現したのは、” $70 = 7 + 62 + 1$ ”です。つまり”足し算をして合計が70です。と言うように七〇週を捉えることを「洞察」するためかも知れません。

そうであれば、最後の一週が1900年後の成就であって良いこととなります。

いずれにしても、西暦36年までに、この預言が完了していないことは明らかですので、「終わりの日」の最終部分でこの残りの1週が成就すると考えて間違いのないでしょう。

キーワードは2つ「荒廃をもたらす嫌悪すべきもの」と「週の半ば」つまり「3時半」

このキーワードはダニエルの他の預言や黙示録の記述とも関連していることは明白です。

とりわけ「2300日」に関する預言と密接な関連がありますので、別項目で「2300日」の預言にどのように最後の1週が関連しているかを今後まとめる予定です。